

2015（平成27年度） 研究所報告

1. 組織（2015年10月1日現在）

所長	松川 節
主事	松浦 典弘
委員	村瀬 順子（大学院文学研究科長）
	滝川 義弘（教育研究支援部事務部長）
	乾 源俊（教授・中国文学）
	織田 顕祐（教授・仏教学）
	古川 哲史（教授・歴史学／比較文化・社会論）
	藤田 義孝（准教授・フランス文学・フランス文化）
	藤原 正寿（准教授・真宗学）

2. 研究組織

〔特定研究〕

教如上人研究

研究課題	真宗大谷派・東本願寺開祖である教如上人に関わる史料の調査と研究
研究代表者	草野 顕之（学長・教授・日本仏教史学）
研究員	平野 寿則（チーフ・准教授・日本近世史・近世仏教史・真宗史）
	東館 紹見（教授・日本仏教史）
	川端 泰幸（講師・日本中世史）
嘱託研究員	福島 栄寿（准教授・近代日本仏教史・近代日本思想史）
	大桑 斉（本学名誉教授）
	山田 哲也（裏千家学園講師・本学非常勤講師）

〔指定研究〕

清沢満之研究

研究課題	清沢満之の生涯と思想の研究を更に進め、その成果を『清沢満之全集』の補遺として、発刊する。
研究代表者	藤原 正寿
研究員	藤原 正寿（短期大学部准教授・真宗学）
	加来 雄之（教授・真宗学）
	一柴 真（教授・真宗学）
	西本 祐攝（短期大学部講師・真宗学）
嘱託研究員	安富 信哉（本学名誉教授）
	村山 保史（教授・西洋哲学・日本哲学）

名畑直日児 (真宗大谷派教学研究員)

研究補助員(RA) 村上 良顕 (博士後期課程第3学年)

石原 樹 (博士後期課程第2学年)

国際仏教研究

研究課題 諸外国における仏教研究の動向の把握と資料の収集・整理・公開

研究代表者 井上 尚実

研究員 井上 尚実 (准教授・真宗学)

Robert F. Rhodes (教授・仏教学)

Michael J. Conway (講師・真宗学)

藤枝 真 (准教授・宗教学・哲学)

井黒 忍 (准教授・東洋史学)

嘱託研究員 Michael Pye (マールブルク大学名誉教授)

James C. Dobbins (オーバーリン大学教授)

Mark L. Blum (カリフォルニア大学バークレー校教授)

Paul Watt (早稲田大学留学センター教授)

羽田 信生 (毎田周一センター所長・本学非常勤講師)

阿満 道尋 (アラスカ州立大学アンカレッジ校准教授)

赤尾 栄慶 (京都国立博物館名誉館員・本学客員研究員) (2015年10月1日付)

研究補助員(RA) 梶 哲也 (博士後期課程第2学年)

味村 考祐 (博士後期課程第3学年)

尾崎 俊文 (博士後期課程第3学年)

西藏文献研究

研究課題 チベット語文献及びパリー語貝葉写本のデータベース化

研究代表者 三宅 伸一郎

研究員 三宅 伸一郎 (准教授・チベット学)

武田 和哉 (准教授・歴史学・考古学・人文情報学)

藤田 義孝 (准教授・フランス文学・フランス文化)

嘱託研究員 白館 戒雲 (本学名誉教授・特別研究員)

U. Erdenebat (モンゴル国立大学社会科学部教授)

清水 洋平 (本学非常勤講師・特別研究員)

高本 康子 (北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター学術研究員)

西沢 史仁 (特別研究員)

伴 真一朗 (博士後期課程修了) (2015年10月1日付)

舟橋 智哉 (博士後期課程修了) (2015年10月1日付)

研究補助員(RA) LAMAO ZHUOMA (博士後期課程第3学年)

ARILDII BURMAA (博士後期課程第1学年)

ベトナム仏教研究

- 研究課題 ベトナム社会科学アカデミー宗教研究院との共同研究
 研究代表者 織田 顕祐
 研究員 織田 顕祐 (教授・仏教学)
 浅見直一郎 (教授・東洋史学)
 箕浦 暁雄 (准教授・仏教学)
 嘱託研究員 桃木 至朗 (大阪大学教授)
 大西 和彦 (ベトナム社会科学アカデミー宗教研究院客員研究員)
 福島 重 (本学非常勤講師)

〔資料室〕

大谷大学史資料室

- 研究課題 大学史関係資料の収集・整理
 室長 松浦 典弘 (研究所主事・准教授・東洋史学)
 嘱託研究員 戸次 顕彰 (本学非常勤講師)
 研究補助員(RA) 松岡 智美 (博士後期課程第3学年)

東本願寺海外布教資料室

- 研究課題 大谷大学図書館所蔵「東本願寺旧蔵資料」海外布教関係部分の整理
 室長 桂華 淳祥 (教授・東洋史学)
 嘱託研究員 松川 節 (研究所長・教授・モンゴル学)
 松浦 典弘 (研究所主事・准教授・東洋史学)
 李 曼寧 (本学博士後期課程修了)
 研究補助員(RA) 濱野 亮介 (博士後期課程第3学年)

デジタル・アーカイブ資料室

- 研究課題 大谷大学所蔵貴重資料のデジタル・アーカイブの構築
 室長 松浦 典弘 (研究所主事・准教授・東洋史学)

〔一般研究／共同研究〕

- 研究課題 スティラマティの俱舎論注釈書『真実義』梵文写本第一章の研究
 研究代表者 小谷信千代
 研究員 小谷信千代 (本学名誉教授・特別研究員)
 協同研究員 秋本 勝 (京都女子大学教授)
 福田 琢 (同朋大学教授)
 本庄 良文 (佛教大学教授)
 松田 和信 (佛教大学教授)
 箕浦 暁雄 (准教授・仏教学)

上野 牧生 (短期大学部助教・仏教学)
 加納 和雄 (高野山大学准教授)
 松下 俊英 (本学非常勤講師・特別研究員)

研究課題 デジタルアーカイブ技術による契丹国の歴史考古言語資料の復元的
 研究と集成

研究代表者 武田 和哉

研究員 武田 和哉 (准教授・歴史学・考古学・人文情報学)
 松川 節 (教授・モンゴル学)

協同研究員 町田 吉隆 (神戸市立工業高等専門学校教授)
 等々力政彦 (本研究所協同研究員)

高橋 学而 (福岡文化学園博多女子高等学校教諭)

武内 康則 (京都大学白眉センター助教)

藤原 崇人 (関西大学東西学術研究所非常勤研究員)

橘堂 晃一 (龍谷大学研究員)

福井 敏 (本学非常勤講師)

研究課題 日本における西洋哲学の初期受容—フェノロサの東大時代未公開講
 義録の翻刻・翻訳—

研究代表者 村山 保史

研究員 村山 保史 (教授・西洋哲学・日本哲学)
 朴 一功 (教授・西洋古代哲学)

協同研究員 渡辺 啓真 (教授・倫理学)
 藤田 正勝 (京都大学大学院教授)

竹花 洋佑 (本学非常勤講師)

西尾 浩二 (本学非常勤講師)

研究課題 モンゴル国カラコルム博物館における歴史研究を基軸とした情報化
 と国際協働の推進

研究代表者 松川 節

研究員 松川 節 (教授・モンゴル学)

協同研究員 清水奈都紀 (奈良大学非常勤講師)

研究課題 紋章との比較による系譜の図像化規則とその構造分析

研究代表者 柴田みゆき

研究員 柴田みゆき (教授・情報処理学)

三浦誉史加 (准教授・英文学・英米文化)

協同研究員 松浦 亨 (北海道大学病院企画マネジメント部臨床教授)

杉山 正治 (本学非常勤講師)
 生田 敦司 (本学非常勤講師)
 清水 利明 (一般財団法人比較法研究センター特別研究員)
 横澤 大典 (本学非常勤講師)
 平塚 聡 (立命館大学情報理工学研究科研修生)
 齋藤 晋 (NPO 法人国土利用再編研究所副理事長)
 寺岡 茂樹 (中世日本研究所女性仏教文化史研究センター研究員)

研究課題 アブラナ科植物の伝播・栽培・食文化史に関する領域融合的研究
 研究代表者 武田 和哉
 研究員 武田 和哉 (准教授・歴史学・考古学・人文情報学)
 三宅伸一郎 (准教授・チベット学)
 協同研究員 渡辺 正夫 (東北大学大学院生命科学研究科教授)
 鳥山 欽哉 (東北大学大学院農学研究科教授)
 吉川 真司 (京都大学大学院文学研究科教授)
 横内 裕人 (京都府立大学文学部准教授)
 江川 式部 (明治大学商学部兼任講師)
 等々力政彦 (本研究所協同研究員)
 清水 洋平 (本学非常勤講師・特別研究員)

研究課題 文化地質学：人と地質学の接点を求めて
 研究代表者 鈴木 寿志
 研究員 鈴木 寿志 (准教授・地質学・古生物学)
 廣川 智貴 (准教授・ドイツ文学)
 協同研究員 清水 洋平 (本学非常勤講師・特別研究員)
 研究協力員(支援) 石橋 弘明 (本学聴講生)

[一般研究／個人研究]

研究課題 タイ国を中心とする東南アジア撰述仏教説話写本の研究
 研究代表者 清水 洋平 (本学非常勤講師・特別研究員)

研究課題 インド・チベットにおける般若学の研究
 研究代表者 白館 戒雲 (本学名誉教授・特別研究員)

研究課題 共感覚の進化的基盤を探る
 研究代表者 高橋 真 (講師・比較認知科学)

- 研究課題 『中辺分別論』の未解読チベット語註釈写本の研究
研究代表者 松下 俊英（本学非常勤講師・特別研究員）
- 研究課題 移行期正義の社会的影響に関する比較社会学的研究
研究代表者 阿部 利洋（准教授・社会学）
- 研究課題 依存に関する責任帰属を評価するための概念的基盤の構築
研究代表者 佐々木 拓（任期制助教・特別研究員）
- 研究課題 ハンス・リップス解釈学におけるパトスを基盤とした知識教授理論の研究
研究代表者 田中 潤一（准教授・教育学・教育哲学）
- 研究課題 生業の域内多様度とその形成過程：東南アジア大陸部におけるモン村落の事例比較
研究代表者 中井 信介（任期制助教・特別研究員）（2015年7月31日付廃止）
- 研究課題 初期チベット論理学成立史解明のための基礎研究
研究代表者 福田 洋一（教授・仏教学）
- 研究課題 前近代中国黄河中流域における水利権と水利組織
研究代表者 井黒 忍（講師・東洋史学）
- 研究課題 傷痍軍人職業保護事業で整形外科医が果たした役割についての歴史的研究
研究代表者 上田 早記子（任期制助教・特別研究員）
- 研究課題 『タットヴァールタースートラ』シッダセーナ注を中心とするジャイナ教の戒律解釈史研究
研究代表者 河崎 豊（本学非常勤講師・特別研究員）
- 研究課題 口承と文献学の融合に基づくチベット後期中観思想研究
研究代表者 西沢 史仁（特別研究員）
- 研究課題 綱島梁川を中心とした明治・大正期の宗教思想研究のための基盤構築
研究代表者 古荘 匡義（本学非常勤講師・特別研究員）

研究課題 タデウシュ・カントルの演劇と能に描かれた死の表象の精神分析理論による考察

研究代表者 番場 寛 (教授・フランス文化・フランス文学)

研究課題 情報検索分野を中心とした、可視化技法の応用に関する研究

研究代表者 酒井 恵光 (講師・計算機科学)

研究課題 アビダルマの因果論に関する総合的研究

研究代表者 箕浦 暁雄 (准教授・仏教学)

研究課題 隅寺心経の基礎的研究

研究代表者 宮崎 健司 (教授・日本古代史・日本古代宗教学)

研究課題 触法知的障害者に対するピアサポーターな更生支援活動の実践とその評価

研究代表者 脇中 洋 (教授・発達心理学・法心理学)

研究課題 ハイデッガー「黒ノート」の研究——「計算的思考」の分析を中心に

研究代表者 田鍋 良臣 (任期制助教) (2015年8月28日付)

研究課題 シュティフターとシュトルムの文学における「障がい児」像

研究代表者 藤原 美沙 (任期制助教) (2015年8月28日付)

3. 指定研究の動向

教如上人研究

本研究では、「真宗大谷派・東本願寺開祖である教如上人に関わる史料の調査と研究」を課題として調査・研究を進めている。

真宗大谷派・東本願寺開祖ともいふべき位置にある教如上人(永禄元年=1558~慶長19年=1614)の研究は、「大谷派なる精神」、大谷派存立の理念と存在理由を明らかにする意義を有している。

こうした意義を持つ本研究では、教如上人に関する史料の全面的・組織的な調査を実施し、それらを体系的に整理して、将来的には出版・公刊し、広く内外に成果を問うことを目的・目標としている。

具体的には、1. 教如上人授与物、2. 消息類、3. 聖教文言掛幅、4. 開板聖教(正信偈三帖和讃・御文など)、5. 言行を伝える覚書・日記類などの諸史料を調査・研究の対象とし、これまでに公刊されている史料集や図録類などからの収集を進めるとともに、寺院調査も行い、そこで得られた情報をデータベースとしてまとめ、画像データ、史料翻刻データなども蓄積している。2015年度の研

究活動とその成果については以下のとおりである。

〈研究会〉

2015年度は4回の研究会を開催した。2015年5月27日(木)には、川端泰幸研究員より「教如と織豊武士団」と題する研究報告がなされ、続いて調査日程などの打合せを行った。また、11月20日(金)には、夏期に実施した光現寺（長浜市）・徳満寺（長浜市）および、春日五日講（岐阜県揖斐川町）の調査成果についての検討を行い、いずれの寺院・講も、教如上人との深い関係を持ち、東本願寺創設の基盤となっていたことを確認した。2016年1月13日(木)は、春日五日講の研究成果をまとめるための検討会を実施するとともに、本誓寺（新潟県上越市）の予備調査の状況と、本調査に向けての打合せを行った。3月15日(火)の研究会では、本誓寺調査に向けて、具体的な手順や日程の打合せを行った。これら一連の活動を通じて、教如上人と各地寺院・門徒との関係について、次々と新たな知見を得ることができている。

〈調査〉

2015年度は、①光現寺（長浜市）・②徳満寺（長浜市）・③春日五日講（岐阜県揖斐川町）・④岡崎別院（京都市）・⑤本誓寺（新潟県上越市・予備調査）と、合計5回の史料調査を実施した。これらの調査を通して、教如上人と地域との結びつきが見えつつある。

清沢満之研究

本研究は清沢満之の生涯と思想の研究を進めることを目的としている。大谷大学編『清沢満之全集』（岩波書店、『全集』と略）の刊行以来、清沢研究や近代仏教史研究等の諸分野において『全集』は広く多くの研究者に読まれ、研究の進展に大きな役割を果たしている。2014年度に活動を再開した本研究では既刊『全集』に未収録の文献を収集し、補遺として刊行することを主な活動内容としている。それは清沢を学祖と仰ぐ本学が継続的に行うべき使命であると言えよう。

本年度は、以下の三点を柱に研究を進めた。

- ① 前研究班収集文献の精査・翻刻
- ② 『全集』未収録文献の収集、翻刻
- ③ 補遺編集方針の検討に向けた研究会の開催

①について前研究班（1991年度から2003年度まで活動、以降2007年度まで大学史研究内で活動継続）が収集した西方寺蔵清沢自筆稿の中で『全集』未掲載文献の精査を行った。これらは大学時代の受講ノート、書籍からの抜書等が中心であり、『全集』掲載基準を満たさないため掲載されなかった文献である。その中で十一点が未翻刻であり翻刻作業を再開した。これらの文献が有する意義は「清沢満之の思想形成を探る資料」「日本近代教育史（帝国大学の講義内容）の資料」

の二点が挙げられる。掲載基準を満たさないため補遺収録は難しいが何らかの形で公開すべき重要な文献群である。

②について出張調査を二度実施した。2015年9月2日(木)、西方寺に赴き活動報告と補遺出版に向けた具体的な相談を行った。また、同寺所蔵の清沢自筆書簡と清沢宛書簡等、新たな資料を確認し予備調査を行った。2016年3月24日(木)～25日(金)、長徳寺に赴き同寺所蔵の清沢講義録(「哲学史」「近代史」「今世哲学史」「倫理学史」「近世倫理学史」と清沢自筆書簡等の公開方法を協議した。2015年3月末現在、補遺掲載基準を満たす文献二十点の現存を確認し、十四点を翻刻済みである。

③について2016年2月3日(木)、杉本耕一愛媛大学准教授(当時)を招聘し、「清沢満之と宗教哲学」を講題に公開研究会を開催した。

以上の成果を踏まえ、補遺の構成、編集上の諸問題を具体的に検討していくことが今後の課題である。

国際仏教研究

本研究は、諸外国における仏教を中心とした宗教研究の動向を把握するとともに、国際社会に対して本学の真宗・仏教研究を公開することを目的としている。本年度も英米班、ドイツ・フランス班、東アジア班の三班に分かれて研究活動を進めてきた。各班の研究成果の概要は以下の通りである。

《英米班》

I. 翻訳研究活動

阿満道尋嘱託研究員を中心に、真宗大谷派北米開教区真宗センター(Shinshu Center of America)から出版予定の大谷派教師課程教科書『浄土の真宗』『宗門の歩み』の英訳について、前年度に引き続き翻訳チェックと編集校正作業に協力した。今年度は『宗門の歩み』の訳語と文献解題の検討を終えた。

※『浄土の真宗』英訳は *An Introduction to Shinran's Pure Land Buddhism* として2016年7月に出版された。

II. 国際学会・シンポジウム関係

(1) 国際学会への参加

①第17回国際真宗学会(IASBS)学術大会

2015年8月7日(金)～9日(日)カリフォルニア州パークレーの仏教大学院(IBS)において「浄土教における主体性」をテーマに開催されたIASBS学術大会において、「現代大谷派教学における宗教的主体性の解明」(The Clarification of the Issue of Religious Subjectivity in Modern Ōtani-ha Doctrinal Studies)という題目でパネル発表を行った。発表者は加来雄之(真宗学科教授)、西本祐攝(短期大学部仏教科講師)、マイケル・コンウェイ(研究員)、井上尚実(研究員)の4名(詳細については『所報』67号所収の報告を参照)。

②第21回国際宗教学宗教学史会議（IAHR）世界大会

2015年8月23日(日)～29日(土)、ドイツのエアフルト大学で開催されたIAHR世界大会において、ドイツ・フランス班と共同でパネル発表を行った（下記ドイツ・フランス班の報告を参照）。

(2) シンポジウムの開催

2015年6月26日(金)・27日(土)の2日間、大谷大学メディアホールにおいて真宗近代教学アンソロジー、*Cultivating Spirituality: A Modern Shin Buddhist Anthology* 出版記念シンポジウムを開催した（詳細は『所報』67号所収のコンウェイ研究員による報告を参照）。なお、このシンポジウムの成果は *Cultivating Spirituality* の companion volume として英文学術書として出版する予定である。

(3) シンポジウム開催の準備

2016年5月26日(木)・27日(金)の2日間、大谷大学メディアホールにおいて開催の国際仏教シンポジウム（ELTE 東アジア研究所との共催で第2回）の準備を進めた。なお、第1回シンポジウムの成果については2015年12月に校了し、*Faith in Buddhism* (Imre Hamar, Takami Inoue, eds., Budapest Monographs in East Asian Studies 6) として2016年3月に刊行した。

III. 公開講演会の開催

以下の3回の公開講演会を開催した（会場はいずれも響流館3階マルチメディア演習室）。

(1) 2015年4月14日(火) 16:20～17:50

講師：井内真帆氏（神戸市外国語大学客員研究員）

講題：「スーパーグローバル!? 日本人研究者のチベット研究」“Tibetan Studies in a Global Context: What is the Advantage of Japanese Scholars in Tibetan Studies?”

(2) 2015年7月14日(火) 16:20～17:50

講師：ジョン・ロブレグリオ氏 John LoBreglio（オックスフォード・ブルックス大学）

講題：“Japanese Buddhist Perspectives on the Peace Conference and Early Twentieth-Century Imperialism”
「パリ講和会議と20世紀初頭の帝国主義に対する日本の仏教者の視点」

(3) 2015年10月2日(金) 16:20～17:50

講師：ムダガムウェ・マイトリムルティ氏 Mudagamuwe Maithrimurthi（ハイデルベルク大学）

講題：Significance and Relevance of Benevolence (*maiti*) and Compassion (*karuṇā*) in Buddhist Thought 「仏教思想における慈（マイトリー）と悲（カルナー）の概念の重要性と関連性」

IV. その他

国際研が収集してきた未整理の図書の整理・公開については、研究所所蔵の欧文仏教雑誌とデータ・ベースを照合し、欠本や図書館で継続購入している雑誌との重複などについて整理する作業を進めた。

《ドイツ・フランス班》

I. 学会参加・発表

2015年8月23日(日)から29日(土)にかけて、“Dynamics of Religion: Past and Present”をテーマにドイツ・エアフルト大学で行われた第21回国際宗教学宗教史会議世界大会 (IAHR) に参加しパネル発表を行なった。パネルのタイトルは「現代の日本仏教における社会適応の試み：浄土教の伝統における組織的・言論的な変容」(Attempts at Adaptation in Contemporary Japanese Buddhism: Organizational and Discursive Transformation in the Pure Land Tradition)。マイケル・コンウエイ (研究員) が主任・司会をつとめ、ロバート・ローズ (研究員)、木越康 (真宗学科教授)、藤枝真 (研究員)、新田智通 (仏教学科講師) の4名が発表し、マイケル・パイ (嘱託研究員) が応答する形で行なわれた (詳細は『所報』67号所収のロバート・ローズ研究員による報告を参照)。

II. 翻訳研究

マルブルク大学のD・コルシュ教授による『マルティン・ルター入門』の和訳をルターによる宗教改革から500年にあたる2017年度に出版できるよう訳文の仕上げを進めた。

《東アジア班》

I. 中国社会科学院歴史研究所との共同研究

2010年度に始まった中国社会科学院歴史研究所との共同研究を継続。5年間を期間として学術交流協定を更新し、共同研究を推進した。

II. 国際シンポジウムおよび研究会の開催

国際シンポジウムを2回、公開研究会を1回開催し、研究を推進した。詳細は下記の通り。

(1) 大谷大学博物館所蔵『華夷譯語』出版記念国際シンポジウム

2015年5月22日(金)に大谷大学博物館所蔵『『華夷譯語 (西番譯語四種猥雜譯語一種)』影印と研究』の出版を記念する国際シンポジウムを開催した。

- ① 更科慎一「日本における華夷譯語研究の現状」
- ② 孫伯君「傅斯年図書館蔵『松潘属包子寺等各西番譯語』初探」
- ③ 池田巧「大谷大学所蔵本呂蘇 (リュズ) 譯語について」
- ④ 三宅伸一郎「大谷大学所蔵『西番譯語』におけるチベット文字表記の特徴」

(2) 中国社会科学院歴史研究所との共同研究

2015年7月6日(月)～10日(金)に中国社会科学院歴史研究所より王震中副所長、徐義華研究員、張国旺副研究員の3名を招聘し、本学にて研究活動を行うとともに、7月8日(水)には下記の公開研究会を開催した。

- ① 王震中「中国王権の誕生——兼論夏商周三代複合制国家結構」
- ② 徐義華「中国最早の分家記録——西周琯生三器試析」
- ③ 張国旺「近年来中国大陸元代佛教研究総論」

(3) 中国古代史及び敦煌・トルファン文書研究国際シンポジウム

2015年12月19日(土)に大谷大学真宗総合研究所と中国社会科学院歴史研究所の共催にて本学の教員2名に加え、海外から4名、国内から4名の研究者を招聘し、国際シンポジウムを開催した。あわせて、大谷大学博物館に所蔵される敦煌文書の閲覧を行った。

- ① 王震中（代読：雷聞）「中国国家形態結構の演進と民族類型的関係」
- ② 江村治樹「中国新石器時代の都市発達をめぐる諸問題」
- ③ 牛来穎「大谷馬政文書与《厩牧令》研究—以進馬文書為切入点」
- ④ 浅見直一郎「随葬衣物疏をめぐる」
- ⑤ 李錦綉（代読：牛来穎）「“移隸葱嶺”与唐代的西域経営」
- ⑥ 松浦典弘「杏雨書屋所蔵の敦煌仏教関係文献—羽699を中心に—」
- ⑦ 雷聞「隋唐的郷官与老人—從大谷文書4026《郷官名簿》説起」
- ⑧ 中田裕子「5、6世紀におけるアルタイ地方の交易拠点—回鶻路をめぐる」
- ⑨ 砺波護「敦煌と京都の五台山」
- ⑩ 黄正建「大谷占ト文書研究（之一）—兼与敦煌占ト文書比較—」
- ⑪ 楊宝玉「羽032-1《駙程記》与大中五年張議譚入奏諸問題弁析」
- ⑫ 赤尾栄慶「大谷大学所蔵敦煌写経私見—書誌学的観点から—」

当初、中国社会科学院歴史研究所より参加を予定していた王震中副所長と李錦綉研究員が欠席となったため、それぞれの報告については代読がなされた。

西蔵文献研究

1. チベット語文献の電子テキスト化

以下の2点の文献の電子テキストを作成した。

- ① ニマ・タンパ=シェーラブ・ジンバ『中観学説決択集』（蔵外 No.13949～13954）
- ② イェシェー・トゥブテン・ギャムツォ『クンプム寺歴代座主記および仏像・仏塔等の目録』（蔵外 No. 11861）

とりわけ①に関しては、チベット仏教ゲルク派の最高学位「ゲシェー・ラランパ」の称号を得ているトゥブテン・ガワ（松下賀和）氏によって、難解な縮略文字や書写時の誤りをすべて正しい綴りにしたテキストが完成された。

2. モンゴル国立大学との共同研究

U. エルゲネバト先生を本学に招聘し、国内の研究者もお招きして公開講演会を開催した。また、モンゴル国立大学にて共同研究会を開催し研究報告を行った。詳細は『所報』No.68 (p.16) 参照。

3. パーリ語貝葉写本のデジタル化

タイ中部地域の王室寺院（ワット・マハータートユワラートランサリットやワット・ラーチャシッタラム等）所蔵未整理写本リストを整理し、同リスト所載の文献名と本学所蔵写本との比較を通じ、稀覯本の抽出作業を進めた。また、大谷貝葉の資料的価値を再確認するために、内外の研究者を招き公開ワークショップ「大谷大学所蔵タイ王室寄贈パーリ語貝葉写本の世界」を開催した。詳細は『所報』No. 68 (p.27) 参照。

4. 寺本婉雅関連借用資料の整理

村岡家および宗林寺より借用中の寺本婉雅関係資料について、集中的に資料全体の調査・点検・撮影をおこなった。一連の調査における最大の成果は、宗林寺資料中に、稀覯本『モンゴル仏教史』を発見したことであった。資料は、その全体に対する目録を完成させ、専用の箱に収納し、所蔵者に返却した。また、寺本家に所蔵される資料に対する調査もおこなった。詳細は『所報』No. 68 (p.23) 参照。

5. フランス国内所蔵のチベット語文献およびフランス人学者による成果物等の調査

予備調査としてインターネット等を用いて情報収集をおこなった。

ベトナム仏教研究

本研究は、ベトナム社会主義共和国のベトナム社会科学アカデミー宗教研究院（以下、「宗教研究院」）との間で締結された協定に基づき推進する共同研究である。

昨年度より進めてきた『日本仏教概説』については、執筆状況の確認と意見交換を継続的に行い、日本語原稿の大半が揃うにまでなった。現在も継続して執筆者との連絡を取り続けている。

また、2016年3月21日(月)～26日(土)の期間にわたって、織田顕祐（研究代表者）と箕浦暁雄（研究員）が、調査のためベトナムを訪れた。現地では、大西和彦（嘱託研究員）の同行を得て、トゥアン院長をはじめとする宗教研究院の人びとと打合せを行い、「概説」の進捗状況の報告・確認とともに今後の研究の進め方について意見交換を行った。その後、現地の仏教寺院をいくつか調査するとともに、ベトナムの仏教状況を表す書籍を現地書店において購入することができた。

ついで、ベトナム国家大学ハノイ校人文社会大学を訪れ、ファン・ティ・トゥ・ザン博士と懇談し、人文学研究で今後協力し合っていくことを確認した。この訪越に関しては、既に『研究所報』第68号 pp. 17～18にも報告しているので、併せて参照されたい。

更に、2015年度は研究成果の公开发信も進めることができた。

10月28日(水)には、グエン・ヒュー・スー氏を招聘して、「ベトナム仏典刊行略史—永厳寺所蔵木版を中心として—」と題して講演会をマルチメディア演習室において開催した。

11月5日(休)～6日(金)にかけて、日本教育会館において開催された東方学会平成27年度秋季学術大会で、桃木至朗（嘱託研究員）が「金石文から見た中世ベトナムの国家・社会」と題して講演を行った。また、浅見直一郎（研究員）が同学会に参加した。

インプット・アウトプットともに、大きく進めることができた1年であった。